

2月23日(月)、立仏小学校スポーツ少年団のドッヂボールチーム「タチボトケ軍団」が、3月1日に富山県黒部市で行われる第7回クロネコカップ春の全国小学生ドッヂボール選手権北信越大会に出場するに先立ち、町長を表敬訪問しました。5、6年生で構成する選手19人を代表して、6年生の金子くんが、「1勝でも多く勝ってみたいと思います」と決意を述べ、町長は、「悔いの残らないよう頑張ってきてください」と激励しました。

なお、大会結果はスポーツ・大会のコーナーに掲載しました。

タチボトケ軍団、がんばれ！



父 子 供が自分でするしもの子供は大切
する想いをいたしました。大學生だと思わ
ない子供にとつて学校がすべて
立たないといふので、いろんな選択肢の中から子供にあつた
ものを選んでやればいいと思いま
ると思います。学校にこだわらなかつたが自
分の意味で親とのあるべき時
代だと思つ。この時期は序列と方
大事だと思つ。3歳から10歳までが本当の
大事だと思つ。10歳過ぎたの着く

母 夏休みもまえに7日、終わつ
てから20日休んだのですが、
その程度なので…。
父 中 学校、高校へ行かなくて
なんとかなるということにな
った、具体的にお話しします
母 もともと自由業に近い中学
生だったんです。

父 中学校、高校へ行かなくて
ならないことは、かなり隔たりが
あると思う。意味も分からず、押
しつけられていては学ぶ意義を見
いだせないとと思う。いつその気に
なるかが問題だが勉強すると本気
になつたら、短期間で身につくが
もしれない。いい学校に行って、
いい就職をすればいいといつ考え
ました。私はあります。不登校につ
いてですが、人間関係を築くには
学校で社会的な経験をしないと難
しいと思つ。学校へ行くメリット、
行かないメリットを話して本人の
選択に任せればかなり気が楽にな
ると思います。学校にこだわらなかつたが自
分の意味で親とのあるべき時
代だと思つ。この時期は序列と方
大事だと思つ。3歳から10歳までが本当の
大事だと思つ。10歳過ぎたの着く



父：高橋 裕雄さん

素 晴 く ん の 将 来 計 画 を 教 え て く だ さ い

父 やりたい職業についてはすで
に準備に入っています感じです。
目標を持つて、その通りになると
は限らないが意識を持つことは大
事だと思つ。食糧問題、環境問題
人口問題どれをとっても大変な時
代で、その大変さを理解できない
親の世代があるといふ状況でいか
に生き抜く力（生き抜くことするの希望
と将来どうしようかという現実性と
食糧調達能力といった強引に限ら
ない力）をつけるか、はやく気が
つくことが大事だと思つます。

歴史とはエリートの見方、考え方 民俗とは一般の人の暮らし

2月22日からの日曜日、4回にわたって、「蒲原の民俗」と題した町民大学民俗講座が行われました。初回の講義は、講師の県民俗学会会長の駒形さんが、「歴史学には問題があります。それは、一部の特別な人（約2割）が書き残した物の見方、考え方を中心としているもので、一般の人の暮らしは出でていない。それを探るのが民俗学です」と民俗学の必要性を話された後、年中行事と暮らしについて、習慣的な営みが繰り返される伝承的行事は月の満ち欠けのサイクルで行われてきたこと、暦の制度が月を中心としてきたものから太陽に変わっていく中で、行事が混乱してきたことなどを実例をあげて、分かりやすく説明されていました。4回の講座とも身近な話題を取り上げての説明に、参加者に好評で講義後は質問が相次いで出ていました。



子育てについて熱心な対談

2月21日(土)、今年で13回目を迎える青少年健全育成大会が保健センターで行われました。当日は、黒崎交番所長の星野さんから、最近の青少年非行は中学生が増加しているなどの実態報告や、健康と思いやりのある青少年に贈られる若葉賞の表彰が行われました。今年は、熱心な練習で卓球の全国大会に3年連続出場した木場小6年の村井和弥くんと、国道8号地下道の清掃奉仕で町の美化に努めている二之町子供会10人を代表して山際唱くんに贈られました。次いで、明るい家庭づくり作文の優秀作品の朗読、黒崎中生徒による合唱と吹奏楽の演奏発表が行われました。また、記念対談として、太平洋を単独横断に成功した白根市の高橋素晴くんのご両親との一問一答形式の対談（下記に要旨を掲載しました）も行われ、来場した父兄から子育てについての熱心な質問がありました。

父 学験を前にしての中3という年齢で、高校受験、おの先の大学受験についての3人の者のはどうだったのですか
母 本人は義務教育の区切りとして挑戦したいと思っていたし、この航海を決意しなかつたら、ヨットでの高校を考えていました。私たちは学ぼうと思えば、いろいろな形で求めらるものは食べるし賛成しました。自分は何がやりたくてどう生きいくかが大事で、高

校も大学も行かなくて生きる術はあると思います。
父 無線が途切れ、素晴くんが千葉に戻ってきたときはどんな気持ちでしたか
母 無線が通じなくなることもありと話していましたが、やはりほんばらしました。無線と機械がだめになつても「パンバス」と時計さえあればなんどかなる勉強をしていました。大丈夫だと思っていました。
父 父親が持てるかうかが勝負だと思います。
母 私は3歳まではうんと可愛がつて信頼関係を作ることでいろんな考え方を持てる子供になると思う。本当に親にできるだけドームから出て来た時に自分の一生をどうするのかが分かるのだがドームから出て来た時は大変な一生をどうするのかが基本にしていました。15、16歳の反抗期の時は大変な一生をどうするのかが基本にしていました。25歳を過ぎたら家庭を持つて次の世代を育てるという気持ちが持らざるかうかが勝負だと思います。

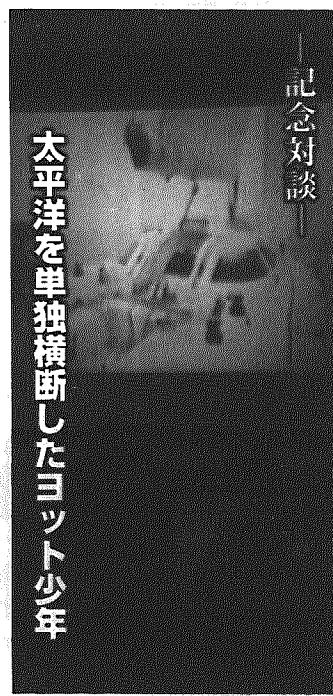
父 学校の勉強とか、授業の遅れはどうしていたのですか
母 私は3歳まではうんと可愛がつて信頼関係を作ることでいろんな考え方を持てる子供になると思う。本当に親にできるだけドームから出て来た時は大変な一生をどうするのかが基本にしていました。25歳を過ぎたら家庭を持つて次の世代を育てるという気持ちが持らざるかうかが勝負だと思います。

2月20日(金)、自動点滅器付街路灯1基が、緒立の町民文化史料館に設置されました。これは、東北電力㈱新潟営業所と㈱ユアテック新潟営業所が行っている「明るい街づくり」の一環として、あかりによる「快適さ」、「やすらぎ」、「うるおい」のある街づくりを推進するため取り付けられたものです。街路灯は4市町（新潟市、白根市、亀田町、黒崎町）に毎年寄付されており、今年は町の希望で旧武田家の屋敷である同史料館に設置が決まりました。街灯として設置されているのですが、水銀灯を使用しているため大変明るく、同史料館がまるでライトアップされているようです。

史料館をライトアップ



町の様々な出来事をお伝えします



記念対談

お読み 選舉中の「電鉄の今昔」は、今回休ませていただきました。

太平洋を単独横断したヨット少年

白根市の中学3年生、高橋素晴君がヨットで単独太平洋横断に成功したのは、2年前の平成8年9月14日のことでした。幾多のトラブルや次々と襲う自然の猛威を乗り切つて、出発から55日を経て見事太平洋横断に成功したことは記憶に新しいと思ひます。去る2月21日㈯、青少年健全育成大会の記念行事の一つとして、素晴君のご両親をお招きし、太平洋横断のお話や、子供たすを取りまく環境が悪化している今、非常に用心の高い子育てについての考え方、家庭環境、夢など一問一答形式で伺いました。